



研修会

会報

全国文化財壁技術保存会

第 20 号

令和二〇二〇年三月二〇日発行

編集 全国文化財壁技術保存会

発行 愛知県江南市力長町

事務局 大当寺二八

TEL (〇五八七) 五九一八〇〇〇

会長 安達保信



年号も新たに令和2年となり、皆様にはご健勝の事とお慶び申し上げます。

昨年も当会の諸行事を滞りなく達成できました事、厚く御礼申し上げます。また、若手技能者育成の各講座におきましては、多大の御助力を賜りました。講師の先生方にも厚く御礼申し上げますと共に、

本年の行事につきましても御支援の程よろしくお願い申し上げます。

振返りますに、各研修会の参加応募者がやや少なくなる傾向にあると危惧致す所であります。世間一般の少子高齢化の中ではありますが、壁技術習得希望は絶える事はないと確信致しますが、個人的な意見として、技能者の社会的地位の向上が何よりも重要と考える次第です。それには、若者達も世間に信頼される技量と人格を備える事が重要であります。当保存会においてもその点は重要視されて参った所ですが、全講座を終了し、中級試験合格者には特別な資格を与える制度を実施し、加えて経済的にも援助を厚くするよう各事業所様が着目頂ければ、業界全体の活性化にもつながると考えます。

当会の伝承者育成講座内容も、従来の漆喰壁・土壁技術に加え、近世の明治・大正期の建造物における洋風左官技術を習得するべく、研修内容を充実させてゆく努力が必要と考えます。これには運営者自身も勉強し、皆様多数のご助力を賜らなければ実現できません。

さて令和元年は初級の基礎講座を実施致しました。内容は、8月に本年度前期講習を姫路と京都にて講義及び見学を、滋賀県坂本にて版築塀と土間叩き工法の実地研修を行いました。また後期講習は京都で講義と見学を、滋賀県で見学会、坂本にて壁下地と竹小舞掻の実習を行いました。熱心に受講されたので、即く現場で活用される事を望みます。

選定文化財壁技術を伝承する為の施策のさらなる活用には

は、一般の人々に認識されるように、体験イベントや技術の映像化等、これから成すべき事は多くあります。

お互いに知恵を出し合い、文化財全体をワンチームで協力して盛り上げるよう努力致します。

なお一層の御支援をお願い申し上げます。

副会長 中嶋正雄



日頃より、関係各位様には

当会の運営に格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今年度も事業計画どおり基礎講座（前期・後期）と中級研修（筆記）を開催し、研修生の皆さんには大変熱心に受講いただきました。両研修会ともに講師の皆様には多大なご協力を頂き、多くの文化財建造物について講義をしていただきました。文化財修復に携わる左官職人として、もちろん技術の向上も大事なことでありますが、文化財概論の知識や左官材料・道具にもしっかり目を向け、研修会で得たものを各地の文化財壁保存現場で活かし活躍してもらいたいと願っています。

また今まで漆喰工事を中心として研修会を行ってきましたが、現在の研修会に加えて今後「明治・大正建築研修会」

を開催したいと考えております。これから明治・大正時代の左官工事が多くなってくる一方で、洗い出しや研ぎ出し、石膏の彫刻や蛇腹工事の経験のある職人たちの高齢化が危惧されます。したがって勉強会の時間を作り、その職人たちの技術や事例など若い世代に継承していく必要があります。

若手左官職人の研修会だけでなく、中堅の左官職人向け勉強会などの開催に向け、会議数も増やし、今後より一層当会の体制強化に努めてまいりたい所存です。

今年は左官材料及び道具の研究事業にも力を入れ、本当の奥深い左官工事を皆に知ってもらい、これからの左官職人を希望する若い人たちに残していきたいと考えます。

今後とも会の発展に皆様のご協力をお願い申し上げます。

第27期(令和元年度)総会

令和元年5月12日、京都市で第27期定期総会を開催しました。来賓等は、文化庁文化資源活用課(修理指導部門)の黒坂貴裕様、京都府教育庁指導部文化財保護課 建造物担当課長の鶴岡典慶様、保存会顧問 公益社団法人全国国宝重要文化財所有者連盟常務理事事務局長 後藤佐雅夫様、保存会顧問 上田耕三様に出席を頂きました。

総会では、平成30年度事業報告及び収支報告、令和元年度事業計画案及び収支予算案の審議、会則規約改定についての審議を行い、原案のとおり承認されました。引き続き、左官(日本壁)技能者認定証の交付、また伝承者養成技術研修会受講修了証の交付を行いました。



総会の来賓あいさつ



総会



研修会受講修了証の交付



左官技能者認定証の交付

このたび、全国文化財壁技術保存会に入会させて頂き、誠に有難うございます。入会後には早速、伝承者養成技術研修会基礎講座を受講させて頂きました。講師の先生方、役員の皆様方にはこの場をお借りし、御礼申し上げます。

保存会に入会し、伝統壁技術の保存と継承に携わりながら、自分自身の技術と知識も向上させて行きたいと思っています。諸先輩方からは、



新会員の紹介

塩谷洋晴(大和左官)

一つでも多くの事を学び、吸収できるような活動に参加させて頂こうと思っております。

なにぶん未熟で至らぬ点多々あると思いますが、今後におきましては、皆様方のご指導を仰ぐばかりだと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

土間三和土・版築 解体研修会

令和元年6月8日、津田左官工業所において、平成30年度伝承者養成技術研修会（基礎講座）の研修生を対象に3名の研修生の出席を得て、解体研修会を開催しました。実技研修で作った土間三和土と版築について、半年が経った状況を観察すると共に、その解体を行う中で、理解を深めました。



土間三和土 解体



版築 観察



土間三和土 解体



講義

令和元年7月5日から7日、京都にて中級研修（筆記試験を含む）を9名の研修生で行いました。講義は、後藤先生「文化財建造物の壁と茶室について」高品先生「各地の左官技法と施工上の留意点について」中尾先生「文化財施工技術について」江面先生「技術者の心得と文化財建造物の修理について」の後、筆記試験を行いました。

最後は、来本・後藤先生の案内により二条城を見学しました。

左官（日本壁）伝承者養成 技術中級研修会（筆記）



筆記試験



講義



二条城見学



筆記試験



二条城修理現場見学



二条城見学



二条城修理現場見学



二条城修理現場見学

左官(日本壁)伝承者養成 技術研修会(基礎講座)

文化財壁技術の継承を図るため「左官(日本壁)伝承者養成技術研修会(基礎講座)」を開講しました。

前期・後期計12日間、二回に分けての研修会です。

前期は、令和元年8月26日から8月31日の6日間行いました。

姫路市の日本城郭研究センターを会場に、姫路城についての講義や城の修理現場見学、三和土、日本の壁、左官の仕様、文化財についての講義を行いました。引き続き、三木市にある鋳製造所、堺市の紡製造所を見学しました。さらに京都市で文化財保存修理の講義、元離宮二条城の修理現場見学、玉林院の見学を行いました。最後は津田市に会場を移し、

土間・三和土、版築工事の実技研修を行い、前期研修を終えました。

後期は、令和元年10月28日から11月2日の6日間行いました。

京都市において、文化庁の黒坂貴裕様に文化財概論、栗田純徳様に石工についての講義をしていただきました。また尾崎色土製造所・浜橋組建材・中内建材店にて土の見学をしました。そして津田市に会場を移し、滋賀の文化財建造物についての講義、それから岡山理科大学の江面嗣人先生に講義をしていただきました。さらに、東近江市五個荘金堂伝統の町並み、安土城跡、近江八幡市八幡伝統的建造物群保存地区の見学をしました。最後に、津田左官工業所を会場に、木舞搔きの実技を行い、後期研修を終えました。

研修生の感想

■荒木 英丸

この度の研修会では、文化財を通して左官について多くの事を学ばせて頂きました。鋳に限らず、左官に関する材料の入手が困難になっていた事は話には聞いていましたが、実際に工場を見学させて頂き職人の話を聞き、土、苅など現場に着くまでの工程を見る事で、材料の大切さを改めて考える機会になりました。又、色々な所を見学し、説明して頂いた事で、より広い視点で感じ取れる事が多かった様に思います。

文化財の仕事に関わる時は、修復前の建物、壁から少しでも多くの情報を読み取る事の大切さ、再現する技術を身に付けなければならぬ事、また文化財がその地域にとっていかに重要

であり、保存し、いかに活用するかがこのからの課題であるかなど、学びました。

本などで得る情報と違い、現場に関わってこられた講師の方々から直接お話を聞いた事は、大変勉強になりました。

(原田左官工業所)

■塩谷 洋晴

今回このような研修に参加させて頂き、有難うございました。自分自身にとって、大変貴重な時間を過ごせたと思います。

講義では文化財に携わる先生方に専門的な知識などを教え伝えて頂き、とても勉強になりました。普段の現場仕事ではなかなか聞く事の出来ない話でした。文化財の仕事をして頂くうえで、職人としての技術ばかりではなくこの様な知識も必要なのだと思います。そして幾つかの文化財、鋳製造所、左官材料

製造所などへの見学も良い経験でした。特に左官材料、鋺などの左官にかかわる物の存続が難しくなっている話は、今まで以上に考えなければならぬ事だと思います。

実技講習では三和土、版築、木舞掻きと経験させて頂きました。木舞掻きでは縄の結び方など講師の方々から細やかな指導のもと勉強になる事ばかりでした。

今回の研修で学んだ事を大切にし、次へ繋がるよう努力したいと思います。研修に携わって頂いた方々には感謝いたします。有難うございました。

(大和左官)

■加藤 愛斗

今回の基礎講座で、文化財に對しての知識や考え方をより深く広く学びました。僕は経験年数がまだ一年程度なので、これ

から理解していくことなども沢山あると思いますが、ここから成長していけるように努力したいと思います。

今回の研修会で感じた一番大きな事は、地域によって材料、施工方法などが異なるということです。その土地で修復の仕事をすると、その土地のやり方に合わせていかないと完璧な修復ができないので、少しでもその土地の材料、施工方法などをあらかじめ知っておくと、仕事が進むのかなと思います。

左官は追及すればするほど、奥が深く、楽しい世界だと思うので、一人でも興味を持つ人が増えて欲しいと思います。技術の面では努力しかないと思いますので、一日でも早く技術を身につけて、高めていきたいと思っています。

(中島左官(株))

■長坂 晃輔

今回研修を受講して、文化財指定されている建造物および壁の一枚一枚に至るまでの文化財的価値を再認識しました。この講義で培った経験を活かし、今後も文化財補修にかかわる技術者として、できる限り既存の状態を維持し、後世に繋げていくように努めたいと思います。

また今回さまざまな講師の方の講義を受け、文化財修復に必要な材料の断続的な確保が困難であると知りました。その事柄を踏まえ、本来使用すべき材料以外での施工が難しい場合には、技術者として他の産地の材料でも特性を理解し、適切な配合で施工出来るように勉強していきたいと思っています。

前期実技研修では、三和土と版築を教えていただきました。材料の配合、固さ加減、仕上げ

方ともに普段行っている施工法とは異なる点があり、とても充実した経験になりました。また地元の骨材に適した灰とにがりの選別や仕上げ方がある事も学び、今後の施工に役立てたいです。

後期実習では、木舞掻きを教えていただきました。普段行っている作業の再確認を行えたので良かったです。今まで知らなかった大和掻きと言う施工法も習得でき、勉強になりました。丸竹からの加工法や薄竹の作り方なども教えていただき、感謝しております。

最後になりましたが、研修でお世話になりました講師およびスタッフの方々、大変貴重な経験をさせていただき有難うございました。

(有)安達左官店

■ 濱田 雄太

この研修会で、文化財の知識や昔の伝統技術を学びましたが、一番大きく変わったのが文化財に対する意識です。今までは単なる現場だと思いながら仕事していたのですが、この研修でいろいろなことを学び、いろんな人との出会い、左官の仕事に対する考え方が変わりました。粉土や麻苴の製造工程など普段見ることの出来ないものを実際見て、いつも当たり前のように使っている材料がこんなに手間のかかる作業とは知らずにいました。その材料を作る業者が最近減少しているというのを聞きました。職人は材料や道具があつてやっとな仕事ができるので、全員が一体となつて文化財を取り巻く環境作りが大切なんだと思いました。

今回の研修会で学んだことを

忘れずに自分のものにして、今後は技術を磨いていき、技術と一緒に知識も増やしながらこれからの仕事に活かしていきます。

(株)あじま左官工芸

■ 畑中 智也

研修では、とても身になる勉強をさせてもらいました。普段仕事をしても分からないような内容の日々でした。講義で学んだ事を実物で見ることができ、より勉強になりました。

今回の研修で僕は伝統技術の保存・継承はとても大事なことであったので、計画的修理の継続や過度の劣化進行の防止など多くの事に利点のある姫路城のような修理サイクルは、他の文化財の建物でも取り得るべきものだと思います。

また文化財は日本文化、つまり日本の精神を表したものだとして理解しました。そのように考え

ると、文化財をただ保存するのではなく活用していくことによってこそ多くの意味があるのではないかと考えます。文化財をうまく活用できれば、日本の精神もまた守っていくことにつながるのではないかと思います。今回の研修が少しでもこれらの仕事につながっていけばいいと思っています。この度は貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

(木津工業所)



前期講義



饅製造所見学



姫路城修理現場見学



二条城見学



前期講義



三和土実技



土練り



前期研修生と講師



版築実技



色土採取場見学



後期講義



民家見学



色土製造所見学



木舞竹作り実技



木舞竹作り道具



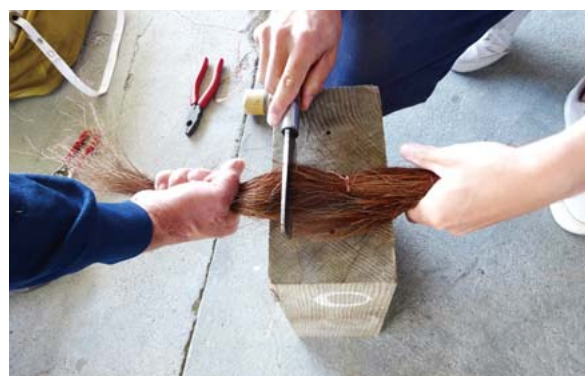
木舞揺き実技



木舞揺き実技



道具作り実技



道具作り実技

中嶋正雄さん 文化庁長官表彰

永年にわたり文化活動に優れた成果を示し、我が国の文化の振興に貢献された方々を文化庁長官が表彰する「平成30年度文化庁長官表彰」が平成31年3月18日、中嶋正雄さんに授与されました。

文化財壁技術保存会の副会長でもある中嶋さんは、永年にわたり、左官工として国宝・重要文化財の保存修理に携わるとともに、後進の育成にも努め、我が国の文化財保護に多大な貢献をされてきました。

この表彰は本会にとりましても、大変喜ばしいことでもあります。長年のご努力に敬意を表しますとともに、今後益々のご活躍を祈念いたしまして、お祝いいたします。



姫路城漆喰塗り体験会

保存会と姫路市の共催事業、姫路城に塗っている漆喰の体験会を開催しました。

令和元年9月29日、姫路城三の丸広場において、平壁漆喰塗りと屋根目地漆喰塗りを、保存会会員の指導により、希望者に体験をしていただきました。また漆喰の説明と共に、道具や材料見本の展示も行いました。





日本の技 体験フェア

文化庁主催の「日本の技体験フェア」が、令和元年11月9日と10日、沖縄県那覇市の沖縄県立武道館で開催されました。

本会は、活動状況のパネルや左官材料・道具などの展示を行うと共に、他の保存団体と協同して「壁掛けづくり」の体験会を行いました。



国宝彦根城の修復工事

(有)津田左官工業所

高台に建つ彦根城は、平成の修理から20年以上が過ぎ、また琵琶湖からの強風雨・近年の台風災害により壁の剥離が早くなり、修復作業を毎年行わなければならなくなりました。

この度の修復は、平成31年4月から令和元年9月に行ったものです。外部の漆喰壁は、上部及び天井に行くほどしっかりと密着していますが、下部及び熨斗瓦部廻りは雨や雪などで損傷を受けており、修復に当たっては伝統工法を守りつつも、以前よりどうすれば少しでも長く持たすことができるかも、課題となりました。

最初に剥落部の調査を行いました。荒壁の下地状況・剥落壁の下地材・漆喰壁の材料などを確認し、どこの県産材料を使用するかを検討を行い、材料の確保をしました。

近年、材料・道具の需用が少なくなり、問屋様も廃業されるところも増えました。左官技術では、技能資格（施工・法令・安全）をお持ちの方から塗ることができますが、文化財仕様となると材料拵えや材料の性質が解るなど、知識や経験が一番大事になります。

この修復工事では、土中塗り斑直し・木部鬚子止め・砂漆喰中塗り（壁と熨斗瓦漆喰との一体化）・油漆喰上塗りの手順となりました。竣工検査が終わり完成、いぶし瓦と青空に白壁の化粧が一段とさえ

わたり、一安心致しました。

今後、このような修復に携わった経験や知恵、全国文化財壁技術保存会で受けた地域それぞれの伝統技術の知識や情報を活かし、日々精進したいと思っています。

また、国宝・重要文化財等の工事に携われる事業所の方がおられましたら、当会で一緒に情報交換や技術向上を図れることも願っています。



若手職人

岡崎灌涵

(株)あじま左官工芸

人の生きた記憶を寡黙に守り続ける建築が愛おしい。この想いが今ある私のすべての原点である。

中学の頃、将来について考える時期に出会った一冊の本がきっかけで、古い建物に対する愛情は緩やかに加速し、歴史的建造物の修復をしたいと大学では建築学科にある保存・修復分野の研究室の門をたたいた。指導教員に自分のやりたいことを話したら、ならば、と実際の現場での左官職の実習を勧めてくれ、これが私の左官との出会いである。調査や設計に進む道もあったのかもしれないが、建物に触

れなければ感じることも残すこ

ともできない、昔の人の工夫や思いがあると知っていた。実際に仕事をするとき、注意して神経を建物に向ければ、「ここは水が回りやすいから何度も重ね塗りが行われた」とか「ここは目立たないところだから見習いさんが塗ってくれた」とか、壁はそれを語りかけてくれるのだ。

私は現在、見習い二年生であるが、腕のけがにより現場に出られず、しばらく内勤に回り、これも試練だと思い直し、

できることをやろうと大学院に入学して左官材料の研究を続けている。研究で成果を出すことは支えてくれている会社、そして生きる場所を与えてくれた左官業界への恩返しだと私は思っている。



これからは自分のペー

スで技術と経験と知識を身につけ、一人前の職人になると共に、社会情勢に合わせた伝統の継承と応用、そして左官技術が仕上げ業界で勝ち残れるような戦い方を模索していくことが私の目標であり、大学を卒業して職人の世界に飛び込んだ者としての使命であると感じている。

編集だより

会報の発行にあたり、原稿をお寄せいただきました皆様方に御礼申し上げます。

本号では初めて、会員の実績「国宝彦根城の修復工事」を、また「若手職人」には岡崎灌涵さんを紹介することができました。今後も掲載したいと思っておりますので、情報提供をお願いします。

また、新たに入会頂きました「塩谷洋晴」さんの紹介もできました。

事務局の吉田様には、原稿収集・校正等ご尽力を頂きました。改めまして御礼申し上げます。

(編集 保存会顧問 上田耕三、事務局 中嶋正雄)

保存会ホームページアドレス
Kabehozonkai.sakura.ne.jp
事務局 Eメール
ichii@centerland.co.jp

選定保存技術左官（日本壁） 技能者認定者名簿

番号	氏 名	所属事業所(交付時)	認定証交付日
1	奥 井 五十吉	(株) 奥 井 建 設	平成17年4月1日
2	田 代 益 市	(有) 田 代 千 治 店	//
3	佐 藤 治 男	左 官 業 佐 藤	//
5	山 脇 光 弘	(株) 山 脇 組	//
6	中 島 正 雄	中 島 左 官 (株)	//
7	津 田 誠 一	(有) 津田左官工業所	//
8	片 田 儀 斎	片田儀斎営業所	//
9	安 達 保 信	(有) 安 達 左 官 店	//
10	堀 喜 晴	堀 左 官 店	//
11	小 林 錦四郎	小 林 左 官 店	//
12	浅 原 雄 三	し っ く い 浅 原	//
13	本 田 昇	本田左官工業所	//
14	石 田 貞 男	石 田 左 官 工 業	//
15	松 本 勉	(有) 左 官 松 本 組	//
16	十 倉 康 光	(有) 安 達 左 官 店	平成18年7月5日
17	長谷川 喜 三	(株) 奥 井 建 設	//
18	宮 川 清	(株) 奥 井 建 設	//
19	高 木 明	中 島 左 官 (株)	//
20	天 池 三 郎	中 島 左 官 (株)	//
21	長 縄 厚	中 島 左 官 (株)	//
22	杉 坂 健	中 島 左 官 (株)	//
23	津 田 弘 道	(有) 津田左官工業所	//
24	福 島 政 和	(有) 津田左官工業所	//
25	山 脇 一 夫	(株) 山 脇 組	令和元年5月12日
26	細 江 洋 平	中 島 左 官 (株)	//
27	中 嶋 英 貴	中 島 左 官 (株)	//
28	荒 木 孝 行	(株) あじま左官工芸	//
29	笹 原 剛	(株) あじま左官工芸	//
30	志 村 まい子	しゃかん かとう屋	//
31	山 本 登	ヤ マ モ ト 左 官	//
32	柴 田 正 樹	(株) 山 脇 組	//
33	石 田 均	石 田 左 官 工 業	//

選定保存技術左官（日本壁） 伝承者養成技術研修会 受講修了者名簿

	番号	氏 名	所属事業所(交付時)	生 年	修了証交付日
第1期生	1	浅 原 一 郎	し っ く い 浅 原	昭和48年	平成17年4月1日
	2	安 達 明 宏	(有) 安 達 左 官 店	昭和39年	//
	3	北 村 久 彦	(有) 津田左官工業所	昭和50年	//
	5	柴 田 正 樹	(株) 山 脇 組	昭和50年	//
	6	中 島 英 貴	中 島 左 官 (株)	昭和52年	//
	7	矢 野 孝太郎	し っ く い 浅 原	昭和48年	//
第2期生	8	勝 木 巖	左 官 業 佐 藤	昭和37年	平成18年4月1日
	9	清 水 達 朗	(有) 田 代 千 治 店	昭和49年	//
	10	廣 田 直 人	し っ く い 浅 原	昭和44年	//
	11	山 脇 一 夫	(株) 山 脇 組	昭和55年	//
	12	伊佐次 卓 也	中 島 左 官 (株)	昭和59年	//
	13	高 屋 忠 光	(有) 田 代 千 治 店	昭和48年	//
	14	香 取 寛 隆	(有) 安 達 左 官 店	昭和51年	//
第3期生	15	本 田 俊 之	本 田 左 官 工 業 所	昭和56年	平成21年4月1日
	16	石 田 均	石 田 左 官 工 業	昭和33年	//
	17	大 森 祐 郎	(有) 田 代 千 治 店	昭和51年	//
	18	塩 畑 明 浩	(株) 山 脇 組	昭和62年	//
	19	田 中 昭 義	左 官 業 佐 藤	昭和48年	//
第4期生	20	水 野 秀 紀	中 島 左 官 (株)	昭和52年	平成22年4月1日
	21	吉 川 司	(株) 山 脇 組	昭和48年	//
	22	大 石 晃 司	左 官 業 佐 藤	昭和53年	//
	23	及 川 敏	(株) あじま左官工芸	昭和39年	//
	24	小 迫 傳	小 迫 左 官	昭和22年	//
	25	山 本 登	小 迫 左 官	昭和35年	//
	26	志 村 まい子	中 島 左 官 (株)	昭和58年	//
第5期生	27	荒 木 孝 行	(株) あじま左官工芸	昭和48年	平成25年4月1日
	28	永 井 宏 和	(株) 山 脇 組	昭和55年	//
	29	淵 田 桂 太	中 島 左 官 (株)	昭和52年	//
	30	本 田 英 雅	佐 藤 左 官 工 業 所	昭和45年	//
	31	御 園 拓 馬	本 田 左 官 工 業 所	昭和60年	//
第6期生	32	足 立 純	(株) 足 立 組	昭和47年	平成26年4月1日
	33	笹 原 剛	(株) あじま左官工芸	昭和54年	//
	34	中 田 一 真	(株) イ ス ル ギ	昭和59年	//
	35	野 村 智 広	佐 藤 左 官 工 業 所	昭和57年	//
	36	細 江 洋 平	中 島 左 官 (株)	昭和57年	//

	番号	氏 名	所属事業所(交付時)	生 年	修了証交付日
第7期生	37	今 成 辰 夫	吉 村 興 業 ㈱	昭和51年	平成29年4月1日
	38	太 田 勝 之	太 田 左 官	昭和47年	//
	39	大 田 雄 介	㈱ 山 脇 組	昭和63年	//
	40	加 藤 正 幸	しゃかん かとう屋	昭和47年	//
	41	木 谷 直 充	㈱ しっくい浅原	昭和62年	//
	42	永 井 貴 晃	㈱ イ ス ル ギ	昭和61年	//
	43	原 慶 介	原 左 官 工 藝	昭和53年	//
	44	森 田 真 伍	中 島 左 官 ㈱	昭和61年	//
第8期生	45	上 床 匡 史	中 島 左 官 ㈱	平成元年	平成30年4月1日
	46	小 島 徹 也	(有) 津田左官工業所	昭和63年	//
	47	竹 内 一 司	㈱ 山 脇 組	昭和44年	//
	48	深 井 浩 昭	吉 村 興 業 ㈱	昭和44年	//
	49	藤 本 健一郎	原 左 官 工 藝	昭和42年	//
	50	丸 橋 優 樹	㈱ しっくい浅原	昭和58年	//

選定保存技術左官(日本壁) 伝承者養成技術研修会 中級研修受講修了者名簿

	番号	氏 名	所属事業所(交付時)	生 年	修了証交付日
第1期生	1	浅 原 一 郎	㈱ しっくい浅原	昭和48年	平成25年4月1日
	2	北 村 久 彦	(有) 津田左官工業所	昭和50年	//
	3	杉 坂 健	中 島 左 官 ㈱	昭和38年	//
	4	田 中 昭 義	(有) 京壁 井筒屋佐藤	昭和51年	//
	5	矢 野 孝太郎	㈱ しっくい浅原	昭和48年	//
第2期生	6	安 達 明 宏	(有) 安 達 左 官 店	昭和39年	平成27年4月1日
	7	榎 本 英 樹	木 津 工 業 所	昭和45年	//
	8	及 川 敏	㈱ あじま左官工芸	昭和39年	//
	9	大 石 晃 司	(有) 京壁 井筒屋佐藤	昭和53年	//
	10	小 林 常 司	左 官 工 芸 有 限 公 司	昭和43年	//
	11	佐 伯 愛 子	木 津 工 業 所	昭和52年	//
	12	志 村 まい子	しゃかん かとう屋	昭和58年	//
	13	長 谷 清 高	㈱ あじま左官工芸	昭和47年	//
第3期生	14	笹 原 剛	㈱ あじま左官工芸	昭和54年	平成29年4月1日
	15	清 水 達 朗	(有) 田 代 千 治 店	昭和49年	//
	16	今 成 辰 夫	吉 村 興 業 ㈱	昭和51年	令和元年5月12日
	17	太 田 勝 之	太 田 左 官	昭和47年	//
	18	木 谷 直 充	㈱ しっくい浅原	昭和62年	//
	19	原 慶 介	原 左 官 工 藝	昭和53年	//

会 員 名 簿

	会 員 名	住 所	事業所名等	左官関係所属団体
正 会 員	佐 藤 治 男	京都市左京区下鴨南茶ノ木町23-4	左 官 業 佐 藤	
	安 達 保 信	京都市下京区花屋町通り間の町西入る天神町411-2	(有) 安 達 左 官 店	京都左官協同組合
	中 嶋 正 雄	愛知県江南市力長町大当寺128	中 島 左 官 (株)	愛知県左官業協同組合
	田 代 益 市	京都市下京区猪熊通り塩小路下る上夷町165	(有) 田 代 千 治 店	京都左官協同組合
	石 田 均	香川県さぬき市大川町富田中2147	石 田 左 官 工 業	
	小 林 錦四郎	和歌山県有田郡湯浅町湯浅2132-17	小 林 左 官 店	
	津 田 弘 道	滋賀県大津市下阪本1丁目20-22	(有) 津田左官工業所	滋賀県左官工業組合
	山 脇 一 夫	兵庫県姫路市飯田1-24	(株) 山 脇 組	日本左官業組合連合会 兵庫県左官工業協同組合 播磨左官組合
	浅 原 雄 三	京都市山科区大宅沢町185	(株) し っ く い 浅 原	京都左官協同組合 日本漆喰協会
	片 田 儀 斎	京都市上京区中立売通小川西入ル三丁目440-5	片 田 儀 斎 営 業 所	京都左官協同組合
	本 田 俊 之	大阪府寝屋川市高柳2丁目43-13	本 田 左 官 工 業	
	松 本 勉	高知県安芸市井ノ口乙1202-3	(有) 左 官 松 本 組	日本左官業組合連合会
	阿 嶋 一 浩	東京都葛飾区青戸8丁目19-11	(株) あじま左官工芸	日本左官業組合連合会 日本漆喰協会
	小 迫 傳	鹿児島県出水郡長島町蔵之元3246の1	小 迫 左 官	
	小 林 常 司	京都市中京区東洞院蛸薬師下る元竹田町639-11	左 司	京都左官協同組合
準 会 員	加 藤 正 幸	三重県伊賀市東高倉2380-11	しゃかん かとう屋	日本左官業組合連合会
	足 立 三喜男	兵庫県三木市緑が丘町東1-3-4	(株) 足 立 組	兵庫県左官工業協同組合
	石 動 信 明	石川県金沢市神田1丁目31番1号	(株) イ ス ル ギ	日本左官業組合連合会 大阪府左官工業組合 石川県左官業組合連合会
	桑 路 丸 幸	兵庫県神崎郡市川町沢115-2	桑 路 建 塗 (株)	日本左官業組合連合会
	木 津 恵 雄	京都市東山区古門通り大和路東入る二丁目三吉町344	木 津 工 業 所	京都左官協同組合
	太 田 勝 之	香川県三豊市豊中町笠田笠岡3156-3	太 田 左 官	日本左官業組合連合会
	原 健 一	和歌山県和歌山市湊御殿2丁目6	原 左 官 工 藝	和歌山県左官技能士会
	吉 村 誠	東京都中野区上鷲宮4丁目10番6号	吉 村 興 業 (株)	日本左官業組合連合会
	原 田 正 一	山形県山形市大字中野423-1	原 田 左 官 工 業 所	山形県左官工業組合 山形市左官業組合
	山 本 登	大阪府河内長野市千代田台町17-21	ヤ マ モ ト 左 官	
賛 助 会 員	塩 谷 洋 晴	愛知県半田市大和町1-57	大 和 左 官	
	宮 谷 邦 夫	兵庫県三木市別所町朝日ヶ丘35番地の69	宮 谷 製 作 所	兵庫県左官工業協同組合
	村 檉 太 郎	栃木県佐野市宮下町1番10号	村 檉 石 灰 工 業 (株)	
	北 野 一 成	大阪府堺市中区深井北町104-2	(株) 北 正 商 店	
	尾 崎 良 弘	京都市伏見区深草大亀谷西久宝寺町7	尾 崎 色 土 製 造 所	
	鳥 越 宣 宏	大分県津久見市徳浦2052-5	(株) 丸 京 石 灰	日本漆喰協会